

白浜レスキューネットワーク通信 6～10月号

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3137-8

TEL&FAX0739-43-8981

<http://srnw.or.jp>e-mail yabiumi@gmail.com

理事長 藤藪庸一

郵便振替 00920-6-85589 口座名：白浜レスキューネットワーク
 紀陽銀行白浜支店普通預金 589389 口座名：NPO特定非営利活動法人
 白浜レスキューネットワーク

自殺者救済活動

6月1日～6月30日

保護件数 6件(男性5名、女性1名)

帰宅件数 4件(男性3名、女性1名)

他の施設 1件(男性1名)

共同生活者数 12人

(男性6人、女性5人、中学生1人)

○5日、男性を保護。17日に橋本の施設へ転入。

○14日、男性を保護。家族も白浜でやり直すことを希望。

○24日、男性を保護。

○27日、女性を保護。その夜、女性相談員が自宅まで送った。

○27日、男性を保護。30日、会社の上司が迎えに来てくれた。

○28日、男性を保護。コロナで仕事を失い路頭に迷った。

7月1日～7月31日

保護件数 2件(男性1人、女性1人)

帰宅件数 1件(男性1名)

他の施設へ 1件(女性1名)

共同生活者数 12人

(男性6人、女性5人、中学生1人)

○3日、男性を保護。

○8日、女性を保護。三段壁のパトロール中に保護された。別の施設で滞在することになった。

8月1日～8月31日

保護件数 4件(男性4名、小学生1名)

帰宅者数 4名(男性4名)

共同生活者数 13人

(男性6人、女性5人、中学生1名、小学生1名)

○4日、男性を保護。警察で保護され、こちらで受け入れることに。

○23日、男性を保護。地元に戻るようになった。

○23日、男性を保護。家族のもとに帰った。

○昨年から共同生活に加わっている中学生の父親と妹も共同生活に加わるようになった。

○6月に保護した男性が、自宅へ帰った。

9月1日～9月30日

保護件数 6件(男性4名、女性2名)

帰宅件数 5件(男性2人、女性3人)

共同生活者数 14人

(男性8名、女性4名、中学生1名、小学生1名)

○1日、男性を保護。家族のもとに帰った。

○2日、女性を保護。家族のもとに帰った。

○3日、男性を保護。体調が悪く病院へ。

○9日、女性を保護。家族のもとに帰った。

○9日、男性を保護。家族のもとに帰った。

○23日、男性を保護。体調が悪く病院へ。

○まちなかキッチンに努めていた女性が自宅へ帰ることになった。

10月1日～10月31日

保護件数 3件(男性1名、女性2名)

帰宅件数 5名(男性3名、女性2名)

共同生活者数 14人

(男性6名、女性4名、中学生1名、小学生1名)

○4日、女性を保護。家族が迎えに来て帰った。

○5日、女性を保護。タクシーの運転手が連れて来てくれた。友人が迎えに来て帰った。

○20日、男性を保護。

○9月に保護した男性が友人宅を頼って大阪に

出た。

○まちなかキッチンで働いていた男性が自宅へ帰った。

生活自立支援活動

○9月に保護した男性は、生活保護を申請し、医療費だけ受給することになった。白内障の手術をすることになった。農業と保養所業務で働き始めた。

○9月に保護したもう一人の男性も生活保護を申請し、医療費だけ受給することになった。糖尿病の薬を処方してもらい通院しながら治療を受けることになった。農業と保養所業務で働き始めた。

○まちなかキッチンで働く40代男性は、メンタルクリニックに通い、薬を服用しながら、夏を乗り切った。今はずいぶん元気が出てきた。

○まちなかキッチンで働く30代男性は、同じ30代の後輩に副菜づくりを教えている。

○新聞配達とまちなかキッチンで働いている50代男性は、残念ながら、新聞配達を辞め、まちなかキッチンも辞めて、自宅に戻った。

○まちなかキッチンで働く30代の男性は、人との関わりで失敗することが多い。自分の話をし過ぎたり、知ったかぶりをしてしまったり、見栄を張ってしまったり。借金返済は順調に頑張っている。

○まちなかキッチンで働く20代の男性は、親御さんに肩代わりしてもらっている借金返済のための積み立てを始めた。

○まちなか惣菜で働く50代女性は、惣菜の調理4品を時間内に作れるようになった。また弁当の製造にも入るようになり、年末のおせちの企画に携わっている。

○まちなかキッチンとコンビニをかけもちしている20代女性は、両立できています。

○50代男性は、まちなかキッチンで働くのを中断。紀南こころの医療センターに通院しながら、治療に専念している。

○4月からまちなかキッチンに就職し、借金返済を頑張っていた女性は、すべての借金を返し終わることができた。

○50代女性は、まちなかキッチンで働くのを一

時中断し、自宅に帰って暮らすことになった。通院していた病院も変わった。

○家族で共同生活に加わった40代男性とその子どもたち(中学1年男子、小学1年女子)は、エジソンハウスの2階の二部屋で生活を始めた。

自殺予防活動

・フードバンク、フードドライブ

グルメシティ白浜店、新庄店、東陽店、明洋店、万呂店、田辺ショッピングセンター、御坊店、各店舗のご協力で毎月たくさんの食材を提供していただいている。お米、カップラーメン、どんぶりの具、のり、ふりかけ、飲み物、お菓子など、行政や地域の各機関と連携して生活に困っている方々に配布している。

・コペルくん活動

現在、毎回2人の小学一年生(白浜第一小学校児童)が参加している。他の小学校からの参加者もたまにある。コペルくんの時間の中で英語の歌を歌う時間を持つようになった。

・夜コペ

テスト期間と、テスト前2週間ほどを、毎晩2時間自主勉強を見守っている。3~5名集まっている。

・コペルくんサマースペシャル

お昼ご飯付きの夏休み企画。今年は54名の子どもたちが登録し、コロナ感染者を出すことなく活動することができた。

・少年少女漂流隊

第一小学校のクラブ活動において、副理事長が講師となり、はじめ人間自然塾の出前版を行っている。テーマは「生きる力と知恵を身につける」。

・農業

今まで貸してもらっていた山の畑を返すことになった。ビニールハウスは夏場の一時期、休止した。

・明誠高校和歌山白浜SHIP(定時制高校)

前期の期末テストが行われ、無事に全員合格し、後期へと入ることができた。

来年に向けての課題として

- ・授業を行う教室を増やす必要がある。
- ・授業を受け持つ教師を増やす必要がある。